



# 佐渡金銀山 未来に残そう 世界遺産

## 金銀山よもやまばなし(16)

### アーチ橋a(下流)

### アーチ橋b(上流)

間ノ山地区の濁川には石造のアーチ橋2基が現存しています。アーチ橋bは橋長約8m(上流側約6.59m、下流側9.54m)、橋幅6.5mであり、橋梁最上部は、アスファルト舗装されており、上流側および下流側には、転落防止柵が設けられています。切石のアーチと雑割石の石積の圧縮力によって支えられる充腹アーチ橋で、切石は幅約1尺×高さ約8寸とし、中央キーストーンにはアーチ部一般切石より高さの大きい幅約1尺×高さ約1尺6寸の切石を用

て使われています。また、濁川を斜めに横断する斜橋構造となっています。建設年代は特定できないものの、アーチ橋の目地材と大間港の目地材が類似していることから、たたき工法で有名な服部長七の服部組が、大間港築港のために滞在した期間中に、建設された可能性が濃厚となります。

アーチ橋aはアーチ橋bの下流27.3mに位置し、構造は同じでも、水路の左岸側壁面と本アーチ橋の継ぎ目がなく、水路と一体感のある構造となっています。

切石アーチ橋1段のうえ、野面石乱積とし、アーチ部の切石は幅約8寸×高さ約1尺2寸とし、中央キーストーンも同じ切石を用い、野面石は短径約4寸から7寸、長径約1尺1分から1尺3寸を測ります。

野面石は短径約7寸から8寸、長径1尺3寸から1尺5寸で、石の間には締め固められた土砂が目地材として

橋長約10.3m、橋幅は左岸側約5.24m、右岸側9.98m、最小幅約3.25mで、左岸下流側以外は、中心線から広が

野面石は短径約7寸から8寸、長径1尺3寸から1尺5寸で、石の間には締め固められた土砂が目地材として

設されたのは明治37年(1904)11月



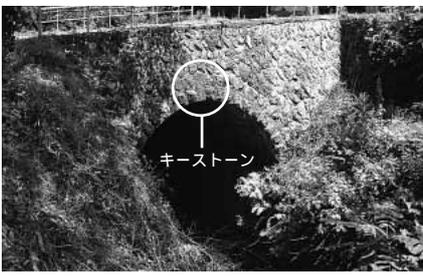
アーチ橋a

以前であり、旧中尾変電所より先に建設されたものと考えられます。建設当時の上部構造や前後の施設等が不明なため、利

左渡金銀山室 74 3115

用目的は定かではありません。しかし、100年の歳月がたった今日でもほぼ原形をとどめている強固な造りになっていることから、重要な構造物であったものと考えられます。また、本アーチ橋のアーチ左岸側は、水路と継ぎ目なくつなげられており、アーチ右岸側の水路とのつなぎ目には、幅60cmの取水用水路が取り付けられています。このことから、本アーチ橋と水路等は、構造および機能が一体となっていることがわかります。このことは、本アーチ橋の造られるに至った背景なども、構造や機能と同様に水路等と切り離せないことを示唆しています。本ア

ーチ橋には、単体としてではなく水路や水路に付随する様々な施設と一体としての保存と利活用を考える必要があります。春から秋にかけては草木が繁茂し、また、遺跡が訪れる人の足下より下に位置することに加え、その周辺が目を引かんばかりの鉱倉所・破砕場・旧中尾変電所が立ち並ぶことから、その存在にすら気が付かないで通り過ぎてしまう人々がほとんどです。しかし、佐渡鉱山の繁栄と衰退の歴史を、100年以上に渡り足下から支えてきた両橋の見事なアーチ曲線を、一度は車を降りて間近でじっくりと観賞していただきたいと思ひます。



アーチ橋b

野面石は短径約7寸から8寸、長径1尺3寸から1尺5寸で、石の間には締め固められた土砂が目地材として

設されたのは明治37年(1904)11月



アーチ橋銘板「佐渡鑛山卅七年十一月」と記されている